

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第219号
3
21. .22

表紙

・次のステージへ、一緒に運動を広げていこう

P2

・ゲノム編集食品が食卓にのぼりつつある今、食べたくない私たちがすすめること

P3

・活動報告 甲状腺検査活動2019報告会 / 「竜おうみ米利用推進月間」活動 / DVDで介護保険学習会
・組合員紹介 ・生産者紹介

P4

・50年間つないできた組合員からエールを受け取り、さらに一歩すすめます
・理事会報告・おたよりネット・編集後記



次のステージへ、一緒に運動を広げていこう

生活クラブ連合会の生産者の会である「親生会」は単なる取引先団体の組織ではなく、私たちとともに生活クラブの運動をすすめていく思いを持った提携生産者が参加している団体です。2010年にエスコープ大阪が生活クラブ連合会に加入した際には、エスコープ大阪の取り組み消費材が変わることへの組合員の不安を理解し、関西独自消費材の生産者にも寄り添った対応をしていただけでした。

今回は、愛知県以西の生活クラブ提携生産者が参加する地域親生会のひとつ「近畿親生会」の代表世話人として、関西独自消費材の生産者を近畿親生会に招き入れることに力を入れていただいた「コーミ株」相談役の牧戸正博さんにお話を伺いました。

※牧戸正博さんは3月末日をもってコーミ株での役割を終えられます。牧戸さんとはエスコープ大阪が生活クラブに加入する以前の「生協連合会きらり」時代からトマトケチャップの生産者として長年お世話になりました。特に生活クラブ加入後は関西の生活クラブ6生協とつながりがある生産者も含めた生産者同士や6生協とのまとまり作りにご尽力いただきました。

(聞き手: 理事長 北辻美樹)



コーミ株式会社 相談役 牧戸 正博さん

戸惑いを隠せなかった初めての「食のフェスタ」

北辻 エスコープ大阪が連合会に加入してから、コーミ株と組合員との本格的な交流が始まりましたが、これまでの関わりの中で印象に残っていることはありませんか。

牧戸 近畿親生会としてエスコープ大阪との交流がスタートしたのは、2010年の「食のフェスタ」でした。前年にそれまでの屋外(大仙公園など)での「生協祭」から、屋内(堺市産業振興センター)に会場が変わり、開催内容も販売メインから試食に転換したときでした。組合員も生産者もまだそのやり方に馴染んでいない様子で、戸惑いも感じられました。組合員からは「なんで販売がないのか」と聞かれました。試食で消費材の良さを感じてもらおうと一生懸命になっていたのを思い出します。

その後も学習会や交流会を何度もおこないましたが、関西の生協の中でもいち早く愛知県知多半島のトマト畑に見学に来てくれた時は、フットワークの軽い生協だと感じました。何度目かの畑訪問ではあいにくの雨で、せっかく愛知県まで来ていただいたのにバスの中から見るだけになってしまい、非常に残念だ

ったことなどを思い出します。

北辻 「食のフェスタ」は試食を通じて生産者と言葉を交わし、消費材の良さを感じてもらいます。組合員から、来場している組合員と市民へ消費材ですすめている運動や取り組みについて伝えるために、組合員が生産者と事前に打ち合わせをおこない、どのように消費材をアピールするのがいいかと考えることで、主体的に関わることができるようになったと思います。

これからの新しい生活様式を受け入れ、活動をどのようにするか

北辻 近畿親生会の代表世話人の立場から、これからの生協活動の課題はどのように考えておられますか。

牧戸 新型コロナウイルス感染拡大により、新しい生活様式を余儀なくされ、私たちの活動の方法も変えていかなくてはいけないということですね。オンラインでの学習会や交流会は、否定はしませんがやはり伝えづらいです。北辻 私たちも今オンラインでの企画を始めたところですが、今まで直接会って伝えていたことがオンラインでどこまで伝わるか、まだ手探りの状態です。

牧戸 その場で食べてもらっておいしさを感じてもらおうのが難しいので、ほかに消費材のことを伝える方法を考えた時、国産の原料ならではの産地の様子を伝えることができるのではないかと思います。例えば、コーミであればトマトを収穫している風景を畑からライブ中継するなど、臨場感をもって伝えることができるのではないかと考えています。

北辻 産地からのライブ中継などができれば、

今まで行きたくても行けなかった組合員が参加できます。また、オンラインで産地を見ると実際に行ってその場を感じたくなると思います。コロナ禍が収まった時の活動にもつながると思います。

コロナ禍の先に思うこと

北辻 コロナ禍を乗り越えた先にはどのような運動のあり方があるのでしょうか。

牧戸 オンラインの手法に慣れ、直接顔を合わせて交流していた時にかかっていた時間やお金が無駄だと感じ、経済効率を優先し、「今後これでもいいじゃないか」となることが心配です。ただ買ってもらえればいいとビジネス的に考えるとそうなります。しかし私たちの運動はそう簡単にはいかない。時間もかかるし実際にリアルに感じてこそ腑に落ちるところがあります。今は立ち止まって考えるいい機会だととらえて生産者としても、次世代の生産者に残していくべきことを伝えていきたいと思えます。他の協同組合組織にも生産者組織はありますが、親生会のような組織は見当たりません。生協組合員と生産者が同じレベルにつき方針協議をし、作る側と食べる側が力を合わせ単に売り買いの問題だけでなく、一人の人間として共通のありたい社会像を持てる関係を築いています。ともに運動を進める仲間の集まりだから、何十年も楽しく続けてこられたと思っています。

北辻 オンライン企画をすることで、今まで参加できなかった新しい組合員との出会いも生まれています。直接会い伝える方法に加え、ウェブでの交流という方法を取り入れることで今まで以上に多くの組合員が関わり、生産者と一緒に持続可能な社会をつくりていきたいと思います。今年度、関西の生活クラブ6生協で青果の共通化政策をまとめました。このことで近畿親生会に参加できる関西独自消費材の生産者が増えると思います。これから近畿親生会と共に生活クラブの考えを関西で広めていきたいと思えます。

ゲノム編集食品が食卓にのぼりつつある今、食べたくない私たちがすすめること

「ゲノム」とは生物の持つ遺伝子情報全体を指し、ゲノム編集はゲノムの中の狙った箇所を改変する技術で、遺伝子組み換えよりも低コストで効率よくつくることができま

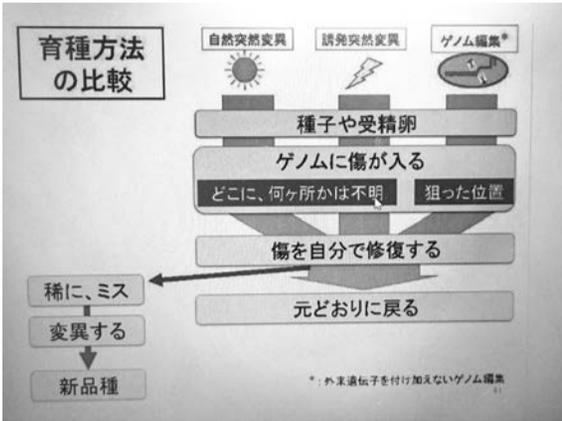
す。2020年12月にゲノム編集食品として国内で初めてトマトの流通販売の届け出を厚生労働省が受理しました。2022年にはゲノム編集食品の流通が始まる見通しです。エスコープ大阪では「たねと食とひと@フォーラム」に講師を依頼し、2月23日(火・祝)に「ゲノム編集技術オンライン学習会」をおこないました。その内容を含め、ゲノム編集食品の問題点とエスコープ大阪の取り組みについてお伝えします。

ゲノム編集食品の現状と抱える大きな問題点

■オフターゲット・規制の問題点

まずゲノム編集食品の規制制度に関する問題ですが、遺伝子改変の今後主流になるだろうゲノム編集技術は、外来遺伝子の導入がないため、分類上同一の種に属するものを扱つたのであれば、規制はしないという考え方です。そのため環境に与える影響評価や食品安全性審査がありません。

ただし、「有機JAS」認定にはゲノム編集されたものは含まないという方針を取っています。ゲノム編集は技術面に関



しても問題があります。従来の遺伝子組み換えにおいては、特定の遺伝子に的中する確率は1万分の1から1千万分の1でしたが、ゲノム編集は結果が出るまでの時間とコストがより少なく、中央率も高い遺伝子改変技術です。想定外の箇所を切断してしまう「オフターゲット」という変異が起きることがあります。また意図しないDNAの組み込みも起こり、その結果必要な遺伝子の働きが奪われたり、有害物質が作られたりする危険もあります。

■「ゲノム編集食品を食べたくない」と思っても選べない

前述のとおり、今の日本の規制では消費者が食品を選ぶとき、ゲノム編集されているかどうかを知る手がかりがありません。

消費者が「ゲノム編集食品を食べたくない」と思っても選べないのです。

「ゲノム編集技術オンライン学習会」の中で「たねと食とひと@フォーラム」の見解としては、外来遺伝子の導入がないという理由で、消費者庁はゲノム編集食品の表示の義務化は困難という判断ですが、遺伝子検査により科学的に判別すること

に加え、社会的検証として各省庁への届け出情報や事前相談の内容、特許となっているゲノム編集ツール(例えば「クリスパーキナーゼ」などの購入履歴を検証することを併用すれば、表示の実行可能性は広がるのではないかと考えますが、生活クラブとしてはどのようにできるか課題があります。

■安全と言われていたら問題ではないのか

いくら国が安全だと判断しても、ゲノム編集には、意図しない遺伝子変化による食料の安全性が脅かされたり、環境に放出された時の遺伝子汚染による生物多様性の破壊、巨大企業による種子の独占などの問題があります。これまで私たちが反対してきた遺伝子組み換え作物と同じ問題点です。そして私たちは何よりも、遺伝子を人為的に改変し、いのかの設計図を操作すること自体に疑問がめぐりません。

ゲノム編集食品の最新情報

すでに新聞などでも報道されていますが、「サナテックシード(株)」と筑波大学がゲノム編集技術で共同開発したGABA高蓄積種トマトの届け出が受理されました。現在ホームページなどを通じて栽培モニターを広く募っており、日本でもゲノム編集食品の流通がはじまる見通しです。

ほかにも現在研究がすすめられていて今後出てきそうなものとして、多収量、耐病性トウモロコシ

(米国種子開発
大手「コルテ
バ・アグリサイ
エンス」(元
「デュポン」)、
高オレイン酸
ダイズ(米国
「カリクスト



2月23日(火・祝)にゲノム編集技術オンライン学習会を開催しました。参加者からは質問が出され、ゲノム編集について理解が深まりました。

社)、肉厚マダイ(京都大学・近畿大学)、毒なしシヤガイモ(「理化学研究所」・大阪大学・神戸大学)、アレルギー物質の少ない卵を産む鶏(「産業技術総合研究所」)、紫色のシャインマスカット、切っても涙の出ないタマネギ、角のない乳牛、おとなしいマゴロ、ウイルスに感染しにくい豚など、今後の流通に向けて開発がすすんでいます。

私たちのこれからの取り組み

現在、ゲノム編集については技術的な面においても市場流通の面においても規制がなく、私たち消費者の知る権利、選ぶ権利、そして健康に生きる権利が脅かされています。

ゲノム編集食品を食べたくない私たちは、ゲノム編集食品を流通させないために、これから、国に安全性審査を義務付けることや食品、飼料等に表示を義務付けること、食物(作物・家畜)には環境影響評価を義務づけることを国に対し求めていきます。

生活クラブ連合会
**甲状腺検査活動
 2019報告会**
 2020年12月4日(金)
 エスコープ大阪本部
 第3会議室
 (オンライン出席)

環境担当理事 芝本 美紀

福島第一原発事故から今年で10年 私たちに出来ること

が欠陥機であったことと、最も重大な被害をもたらすと考えられていた4号機にたまたま水が張られていたことの2つの奇跡により、より広域な被ばくが免れたことわかりました。

生活クラブ連合会主催「甲状腺検査活動2019報告会」がオンラインで開催され、理事5名が参加しました。
 甲状腺検査活動は、福島県の子どもと知る権利を守るために2012年から福島の子どもたちと他地域の嚢胞や結節の有無や大きさの比較し、福島第一原発事故の影響を検証する取り組みです。生活クラブ組合員の子どもを対象に、費用は東日本大震災復興支援カンパを活用しています。2020年度はコロナウイルス感染拡大防止のためエスコープ大阪では中止しました。

報告会では「道北勤医協旭川北医院」院長の松崎道幸先生からは、「空間線量が多いほど、小児甲状腺がんの増加だけでなく、低体重児出生や、心臓(複雑心奇形)や泌尿器(停留精巣)に先天性疾患が増えている」ということを、データを交えて解説していただきました。また、福島原発による被ばく線量は原発のある「浜通り北」の次に多かったのは、風向きにより少し離れた「中通り」の方が多くことや、福島原発事故に2号機

「NPO法人 3・11甲状腺がん子ども基金」吉田由布子さんの活動報告では、今までの活動に加え療養費給付事業「手のひらサポート」受給者が成長し妊娠・出産する際のサポートも始めたことでした。リフレックシアターなどで福島の家族をサポートしている「ぼかぼかプロジェクト」のサポートを受けているお母さんからは、震災当時やその後の避難生活や福島に帰ってきたいきさつなどお話を聞くことが出来ました。各生協からは、「成長期である子どもは、細胞分裂も活発なため放射線の影響を受けやすいことが知られています。そのため甲状腺検査を続けていますが、成長した子どもたちが親元を離れ継続的な検査がむずかしくなってきた」との報告がありました。

東日本大震災による福島原発事故から今年で10年。今回の報告を聞いて、まだ何も解決していない印象を受けました。私たちは、福島原発事故が風化しないように情報を周りに伝え、脱原発に取り組んでいきたいと思えます。

「JAGグリーン近江」(竜王町稲作経営者研究会)と取り組んでいる「竜おうみ米」は、2013年産米の作付けから取り組みがスタートし、今年で9年目になります。滋賀県の竜王町で琵琶湖の水質を守るために農業や化学肥料を減らし安心・安全な生産をすすめています。また「竜おうみ米」を中心に主産地形成として、飼料米や大豆、なたねなども栽培し私たちの食料基地として、農地を守ることに取り組んでいます。お米の生産調整のためローテーションで転作田を決め、大豆や麦などを栽培し地域の水田を守っています。

泉北ニュータウン地域
**「竜おうみ米
 利用推進月間」活動**
 2020年
 12月7日(月)～18日(金)

泉北ニュータウン地域理事
 前田 美佐代



電話をかけて「知ってもらいたいこと」

「竜おうみ米」に関する資料・ニュースの発行物などを準備し、いざつこ

んには「！」と緊張感が高まります。未登録の組合員に登録利用の主旨を伝えました。「竜おうみ米」の良さと米の栄養価についても伝え、今食べているお米についてのこだわりを聞かせてもらおうと、農業については「使用されているかわからない」と答えた方が大半でした。私たちが取り組んでいることと「竜おうみ米」は誰がどのような基準で栽培したのか、出荷し精米過程や流通も明らかかなことを伝えました。今回の呼びかけで4名の方の登録がありました。

組合員のみなさんに消費材を通して「国内自給力向上の大切さ」や「食べる約束の意味」、「消費材の良さ」などを伝え、持続可能な生産と消費を理解と参加を広げて子や孫たちに残していきたいです。

別な機材も使わずに完成させました。「エスコープ大阪サポートセンター」(SOS)のケアマネージャーの監修も受け、実際にDVDにも出演してもらいました。視聴の募集をしたところ想定以上の方から申し込みがあり、何回かに分けて配達しているところです。

このDVD制作の経験を活かし、今後は届いたアンケートも参考にしながら、組合員が必要としている情報を提供し、見て良かった、聞いて良かったと思ってもらえる「DVDによる介護保険学習会」に取り組んでいきたいです。

福祉委員会
**DVDで
 介護保険学習会**
 2020年
 8月～DVDづくり
 12月～DVD配布

福祉担当理事
 日紫喜 啓子

おうちで介護保険学習会



DVD「こんなときどうする?」の一場面

誰しもいつかはお世話になる介護保険制度ですが、前もって資料を取り寄せて、知識を得ておくというのは出来そうではないものです。「自分にはまだまだ聞

が困難な状況です。しかし、「在宅時間が長いこの間にこそ手軽に介護保険に

現在、コロナ禍にあつて実会場に集まっていた開催状態でしたが、福祉委員会メンバーのそれぞれの才能を活かし、リハーサルと撮影、チェックを繰り返しながら、特

別な機材も使わずに完成させました。「エスコープ大阪サポートセンター」(SOS)のケアマネージャーの監修も受け、実際にDVDにも出演してもらいました。視聴の募集をしたところ想定以上の方から申し込みがあり、何回かに分けて配達しているところです。

私たちの生産者

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。

<第19回> 有限会社小島米菓 代表取締役 柳楽 昌三さん



「(有)小島米菓」に入社したきっかけは「おせんべい屋の娘と25歳で結婚したことが入社したきっかけだ」と笑って答えてくださった柳楽さんは、おせんべいひと筋40年だそうです。「もの作りが大好きで、自分の手で作り、そこに皆さんからのお褒めの言葉や励ましの言葉をいただき今日に至る」と話されました。

今まで組合員といろいろなおせんべいを開発しひと筋にはいかなない消費材開発の道のりを、共に乗り越えられてきたそうです。材料は米と油と塩

それだけ!という「米」のみサラダせんべいは「原材料の質がいいから添加物もなしで勝負できる」と自信たっぷり話してくださいました。

昨年の11月から娘婿さんが3代目として製造されているそう、今はせんべいを作る大切な工程のひとつ、「ホイロ」の加減を覚えてもらっているそうです。これはせんべいを焼く前に水分を飛ばす作業ですが、マニュアル通りにはいかず、タイミングや気温などに敏感でないとできないそうです。柳楽さんいわく「指でクックとやると、むこうから今だと言ってくる、このタイミングを逃さずひっくり返すこと」。なかなか難しいような工程に、娘婿さんの奮闘ぶりがかがえます。

紹介します!!
 うちの地域の
 組合員さんです

未来の子どもたちに、大切なものを残し伝えていきたい

谷川 佳子さん
 [泉州地域]



谷川さんが組合員になったのは34年前。4人目のお子さんを妊娠した頃引越、近くにスーパーがなく不便だったこともあり組合員になり、25人班の当番をしたのが始まりだそうです。今回は「エスコープ大阪を通して自分自身を振り返ってみるのもいいかなあ」と取材依頼を受けてくださいました。

その後、仕事に就いて忙しくされています。その後、仕事に就いて忙しくされています。協で勉強されたそうです。



第8回 理事会報告 <2月3日>

【12月度決算報告】

- 供給高 2億5,203万円(前年同月比101.7%)
*配達日数は2日少ない
- 組合員数 19,311名(前月比+24名)
- 一人あたりの出資金 83,946円

【1月の放射能検査結果】

1月は連合消費材665検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①総代会開催について
- ②総代会議案「役員選任規約の一部変更について」
- ③総代選挙の実施について
- ④役員推薦委員の決定について
- ⑤全国制度「生協役員賠償責任保険」の加入申込の件

【協議事項】

- ①コロナ禍での2021年度組合員活動開催基準の一部変更について
- ②2021年度エスコープ大阪の方針案
- ③生活クラブ連合会「2020年度活動報告・2021年度活動方針」(事務局案)への単協意見提出
- ④生活クラブ連合会政策討論集会への参加
- ⑤第二次生活クラブ2030行動宣言の単協討議②
- ⑥温州みかんシーズン予約者への継続取り組み
- ⑦豚肉加工品開発「野菜ソーセージ」の関西運営委員会への提案
- ⑧2021年度豚肉取り組み
- ⑨2021年度ピーク時トマト取り組み
- ⑩5月国産鶏種はりま(丹精國鶏)推進月間取り組み
- ⑪新加入者フォロー取り組みのまとめ
- ⑫サステイナブルフェスの取り組み提案
- ⑬50周年企画取り組みの追加提案(記念品プレゼント)
- ⑭2020年度期末賞与の支給について

おたよりネット

「りっふる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

217号2面「ウィズコロナ時代を乗り越えるために改めて見直した共同購入」を読んで

紙面モニター Oさん

昨年最初に緊急事態宣言が出た時、食料の輸入がストップしたら日本はどうなるのだろうと思いました。感染の心配より食べ物をめぐる大混乱が起こるのではないかと考えさせられました。これを機に日本は真剣に考えていかないとはいけません。

217号1面「お米を通して食と環境を守る運動をこれからも一緒にすすめよう」を読んで

紙面モニター Nさん

農業使用について、「一番の被害者は生産者です」の言葉がとても衝撃的でした。今までは「自分と自分の家族の体に農業を入れたくない」という思いだけでしたが、考えてみると生産者の方々はたくさんの農業に触れているとわかりました。お米に限らず、果物や野菜なども同様に考え、これからもみんなのために無農薬、減農薬を選んでいこうと思いました。

編集後記

表紙や4面で50周年を振り返る内容の機関紙発行が今月で終わりました。特に表紙でこれまでエスコープ大阪に関わってこられた方々にインタビューさせていただき、互いに影響し合いながらここまでできて、今があると感じました。目指すものは同じだった私たちは、出会いによって出会ったのだと、深い縁を感じずにはいられませんでした。これからもありたい社会をともにつくっていく仲間に出会いたいと思います。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>



50年間つないできた組合員から エールを受け取り、 さらに一步すすめます

2020年度はエスコープ大阪設立50周年を迎える記念すべき年でした。新型コロナウイルス感染症拡大のため予定していた50周年事業は予定どおりおこなうことはできませんでしたが、半世紀にわたり組合員の思いをかたちにし、つないできて今があることを再確認する一年となりました。

機関紙『りっふる』4面では2008号(4月号)から一年間、初代組合員理事長の山村瑞子さんが作られた多くの詩の中から、生活協同組合がテーマの詩を連載しました。組合員からは、山村さんとともに活動した当時を懐かしむ声や、実際に会って山村さんのお話を聞きたいなどのおたよりが届き、反響がありました。最後は、設立から50周年をふり返るとともに、未来に残す大切なメッセージとして作成した『生活協同組合エスコープ大阪50周年記念誌 tunaguツナグ』に寄稿していただいた詩を紹介しました。

山村瑞子さんの詩

エスコープ大阪設立五十周年を祝って

あなたは五十年前の
あの日を覚えていますか
三月と言っても

一生忘れられないほど寒かった
宮山台一丁六番のすぐ近く
枯草と赤土の空地の上に
巨大なテントを建てて
生協の創立総会は始まった

組合員になるはずの私たちだれも彼もが
子どもを連れて来ていた
空き地で子どもを遊ばせながら
同時進行で総会は進んだ

寒さと子ども喧嘩の中で
わたしは一生の仲間に出会った
十本の指で数えきれない数の友
喧嘩したり仲なおりましたり
助けたり助けられたり

こうして五十年も付き合っている
それはもういろいろ
温かい優しいばかりでは生協はやってられないよね
個性の違うタイプがより集まって
土台を作るのが生協

もう一つの土台は
商品です

石けん・野菜・みかん・米・豚・ハム・卵・鶏肉
あの時分計算機なんかなくて
そろばんが巾をきかせていて
名人がいた

一ヶ所にまとめておろされる商品
「共同購入」という言葉が使われた
お正月の前には野菜の即売会をしたね
お百姓さん達との付き合いも長くなりました
親子・孫三代です

五十年とは
そういうことです
若くて元氣のよかった職員さんの
面影が浮かびます
喧嘩した人が懐かしい
わたし死ぬまで組合員でいるからね
あなたも組合員でいてね。

(二〇二〇年三月一五日)



設立当初から関わりを持つ多くの組合員や生産者、役員が登場する『生活協同組合エスコープ大阪50周年記念誌 tunaguツナグ』(冊数)に限りがあり、執筆者と関係団体への配布となります。

期間限定で「南海バス(株)」のラッピングバスが走り、設立50周年をアピール。



エスコープ大阪は
これからもあゆみを止めない

山村さんが詩の中で伝えてこられたように組合員が寄り集まって時には、気づかりながら目的に向かっただけです。積み重ねが今のエスコープ大阪の土台を形づくっています。

生活者目線で、日ごろの疑問や解決したい課題を事業・活動の方針として、これまででおおぜいの組合員が協同して食や環境に関する問題解決をすすめ、たすけあいのコミュニティづくりをすすめながら福祉事業やワークスペース・コレクティブなどを生み出してきたように、組合員自ら考えて行動すること、さらに先の50年に向かつて運動をひろげ暮らしやすい社会をつくり、次世代に責任ある行動で未来をつないでいきます。

理事長 北辻 美樹

キリトリ

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
219号(2021.3.22)